

ご あ い さ つ

徳島県小学校理科教育研究会会長 糸田川 裕史



近年、我が国の成長戦略が注目されております。その成長戦略の核になるのは、我が日本においては、やはり科学技術であると考えられます。それには人材が必要となります。科学技術の発展に寄与する人材の育成を考えると、理科教育の充実・振興の重要性は自ずと明らかであります。文部科学省でも理科教育設備整備補助金として平成24年度補正予算において100億円、さらに25年度予算においても30億円という膨大な額の補助金が計上されています。また、小・中学校における「理科観察実験支援員配置支援事業」や「小・中学校理科観察実験指導力向上協議会の開催」など、理科教育に本腰を入れた支援も始まっております。これは、現在の日本の知識基盤社会において、科学技術人材の育成がますます重要な課題となっていることを表してい

ると考えられます。

徳島県小学校理科教育研究会におきましても、その課題解決の一翼を担うべく、研究主題「豊かに感じる心を培い、科学的な見方や考え方が育つ理科教育」を掲げ、「徳島県小学校教育研究会理科部会」、「徳島県理科教育研究会」、「ソニー科学教育研究会徳島支部」(SSTA)の連携を図りながら子どもたちの学力向上と教師の資質向上に努めております。簡単にご紹介させていただきますと、

「徳島県小学校教育研究会理科部会」は毎年研究主題を定めて研修を実施し、2年に1回、県下の小学校教育研究会の理科部員全員による統一大会を、その前年度には開催郡市によるプレ大会を実施しております。また、「徳島県理科教育研究会」、「ソニー科学教育研究会徳島支部」においては、主として教師の指導力向上のため、子どもたちに理科の楽しさを伝える実験や観察の指導法の研究、会員による全国の先進県や各種団体の研究会参加及び論文の作成等、様々な研究活動に取り組んでおります。

現行指導要領理科編におきましては、「児童生徒が知的好奇心や探究心をもって、自然に親しみ、目的意識をもった観察・実験を行うことにより、科学的に調べる能力や態度を育てるとともに、科学的な認識の定着を図り、科学的な見方や考え方を養う」と基本方針が示されています。そして、その柱となるものとして、「基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着」、「科学的な思考力や表現力の育成」、「観察、実験や自然体験、科学的な体験の一層の充実」、「理科を学ぶことの意義や有用性の実感による、科学への関心の向上」などが示されています。それらは、本県の理科教育関係者が「生きる力」を「一人一人の子どもが自分らしく生き抜いていく力」ととらえ、理科という教科が担う役割を、「子どもたち一人一人に豊かに感じる心を培うとともに、科学的なものの見方や考え方を育てていくこと」であると考え、行ってきた取り組みと、重なり合うものであると感じられます。

今年度は、「徳島県小学校教育研究会理科部会」主催による統一大会実施の年となっております。文部科学省教科調査官村山哲哉先生を講師に迎え、「第60回徳島県理科教育研究大会」を11月15日に開催する予定です。開催地は、脇城の城下町として成立し藍の集散地として発展した美馬市脇町。近世・近代の景観がそのまま残されている「うだつの町並み」など、伝統的建造物が数多くあります。その脇町にあり、校舎がうだつの町並みのデザインになっている岩倉小学校が会場です。

岩倉小学校では、上記の指導要領基本方針に沿いながら、本県の今までの研究をふまえ、大会主題「豊かに感じる心を培い、科学的な見方や考え方が育つ理科教育」(副題 問題解決の過程のなかで子ども自らが『知を更新』する理科学習)を受け、『知の更新』を大きく3つに整理されました。そして、それぞれの『知の更新』に対して「学習材との関わり」、「他者との関わり」、「自分自身との関わり」の観点から研究を進めてこられました。ご参加いただければ幸いです。

最後になりましたが、日頃より本研究会を支えてくださっている徳島県小学校教育研究会やソニー科学教育研究会の皆様、徳島県立総合教育センターや阿南市科学センター等の各施設の皆様へ感謝申し上げますとともに、各地の全国小学校理科教育研究会会員の皆様によるご指導をお願いしてご挨拶とさせていただきます。